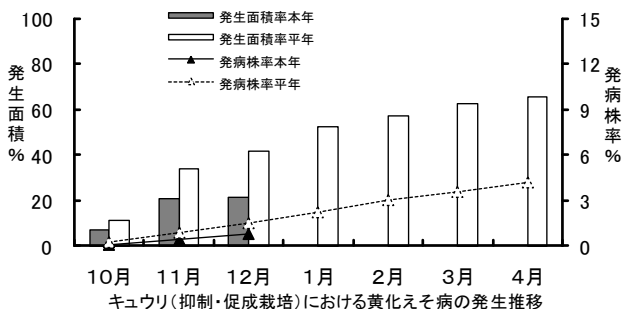


平成27年1月7日

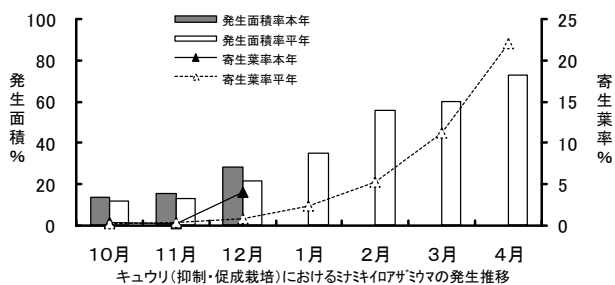
高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月)
野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量:少

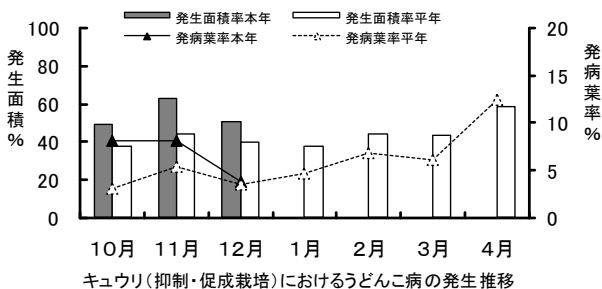


ミナミキイロアザミウマ 発生量:平年並

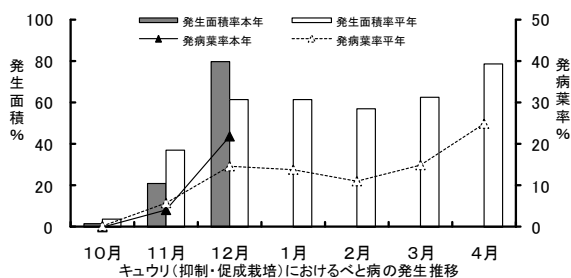


黄化えそ病の発生は各地区ともやや少〜少発生でした。媒介虫のミナミキイロアザミウマは県中央部でやや多発生、中西部と西部では少〜やや少発生で、全体的には平年並の発生です。発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫の防除も徹底してください。キュウリ生長点部に寄生するミナミキイロアザミウマは発見が困難で、薬剤もかかりにくく、密度が高くなると防除が難しくなることから、初期防除を心がけてください。

うどんこ病 発生量:平年並

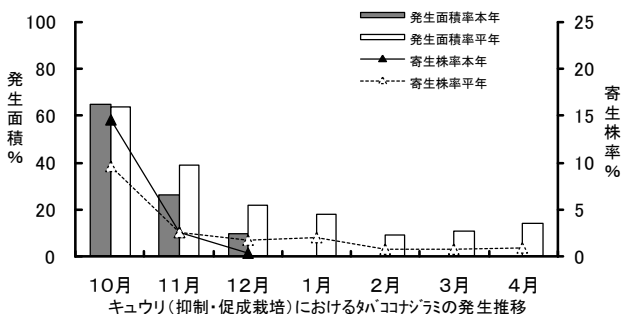


べと病 発生量:平年並

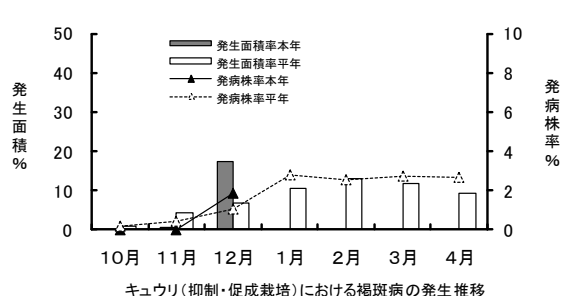


うどんこ病は県中央部でやや多発生、中西部、西部では少発生となっています。べと病は各地区とも平年並の発生となっています。向こう1ヶ月の気象予報では、降水量はやや多く、気温は平年並と予想されており、べと病の増加に注意してください。うどんこ病、べと病ともに蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

タバココナジラミ 発生量:少



褐斑病 発生量:多



県中西部で平年並、中西部と西部では少発生となっています。気温の低下とともに発生量は減少しますが、薬剤散布回数少ない場合は春先に急激な増加が見られる場合があるので注意してください。

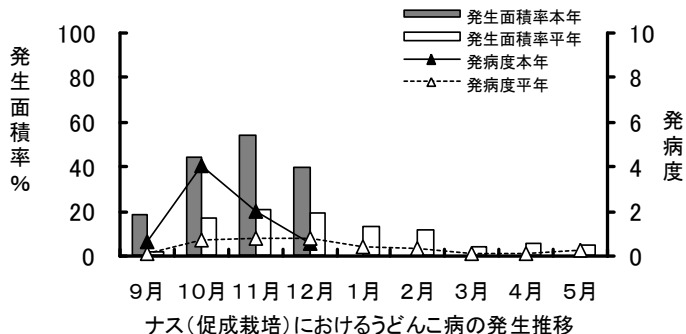
県中央部では少発生ですが、中西部では多発生、西部ではやや多発生で、発病程度も高くなっています。向こう1ヶ月の気象予報から発生の増加が懸念されますので、初期防除を心がけてください。

平成27年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月)
野菜類ダイジェスト版

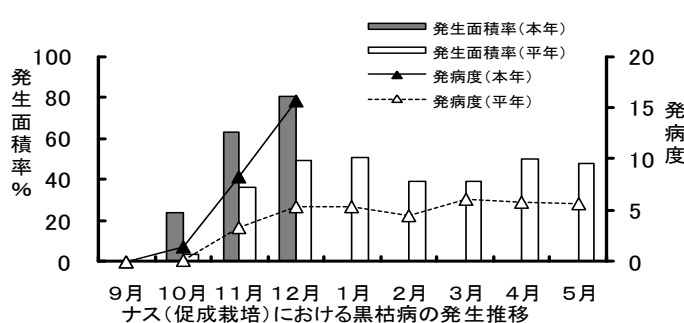
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量:多



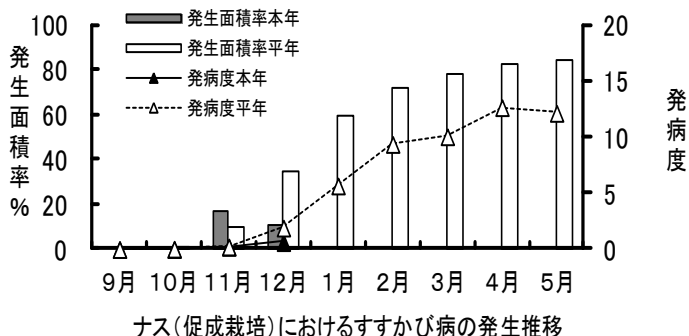
県東部で多発生、中央部で並の発生となっています。先月から発生程度も低下し、下葉に散見される程度の発生です。今後も大幅な発生の増加はないと思いますが、温湿度管理、草勢管理を適正に行い、発病を認めた場合には初期から薬剤防除を行いましう。

黒枯病 発生量:やや多



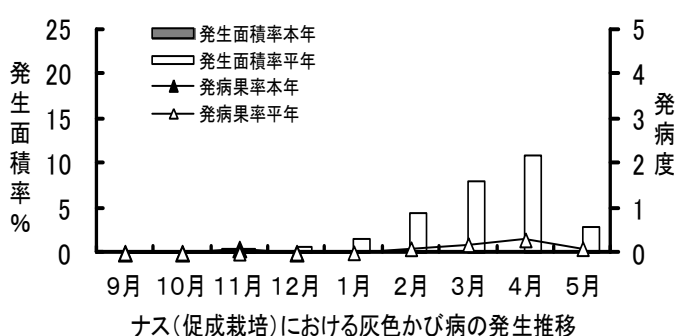
県中央部で多発生、東部はやや多、西部は平均並の発生でした。先月から発生面積・程度とも高くなってきており、気象予報では降水量が多めで推移する予想で、発病の増加が考えられます。定期の予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しましう。

すすかび病 発生量:少

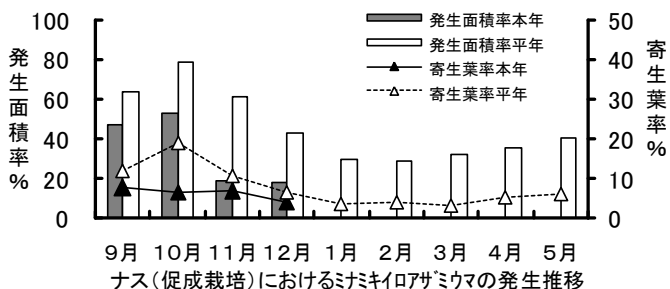


すすかび病は、県西部でやや多発生、東部、中央部では並～少発生となり、先月からやや減少しています。灰色かび病はこれまでのところ、県全体に少発生でほとんど発生は見られていません。向こう1ヶ月の気象予報では、降水量が多めと予想されていることから、現在の発生からやや増加してくると予想されます。定期の予防散布に努め、発病の初期を見逃さないように注意しましう。

灰色かび病 発生量:少

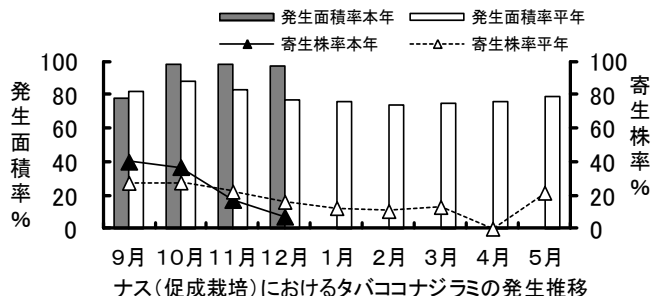


ミナキイロアザミウマ 発生量:少



天敵の定着・増加により、県全体に少発生となっています。特に天敵導入ハウスでは、天敵の定着・増加と気温の低下により、引き続き少発生のまま推移すると思いますが、密度が高くなった場合は、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除が必要になります。

タバココナジラミ 発生量:多



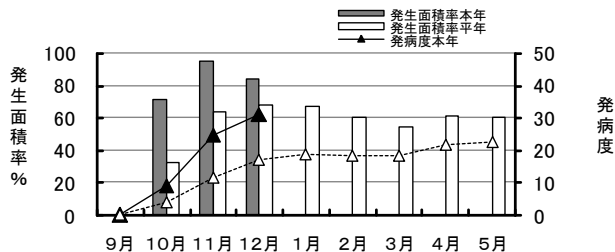
県全体に発生面積は多くなっていますが、発生程度は低く、成虫がわずかに見られる程度です。今後大幅な密度の上昇は見られないとは思いますが、発生状況をよく観察し、初期防除に努めてください。

平成27年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月)
野菜類ダイジェスト版

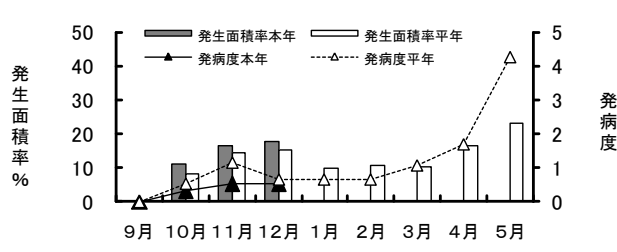
● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

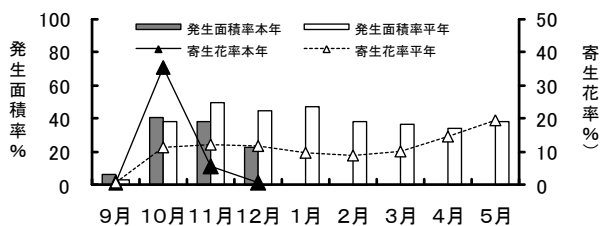
黒枯病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

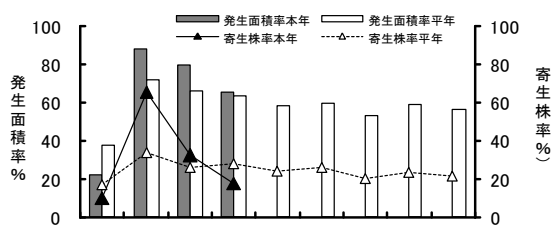
うどんこ病は各地区とも平年並の発生面積ですが、中央部と中西部では程度が高くなっています。一方、黒枯病は中央部では平年並、中西部では少発生ですが、東部で多発生となっています。向こう1ヶ月の気象予報では、降水量はやや多く、気温は平年並と予想されています。両病害とも蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないように丁寧に散布してください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

タバココナジラミ 発生量: 平年並

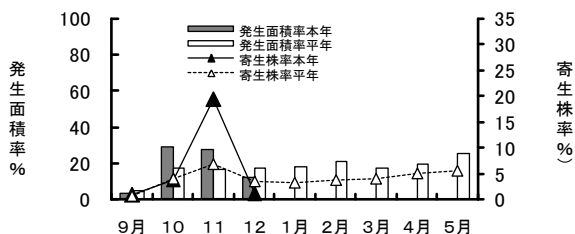


ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

各地区とも少〜やや少発生となっています。天敵の定着が良い場合には、春まで問題とならない程度で推移すると思われます。薬剤散布を行う場合には、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

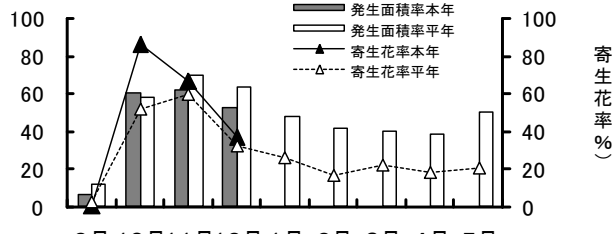
各地区ともに平年並みの発生となっています。スワルスキーカブリダニの定着状況にもよりますが、成虫のみが見られる場合には、特に問題とはならず、天敵のエサとなっている程度だと考えられます。

アブラムシ類 発生量: やや少



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

ヒラズハナアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

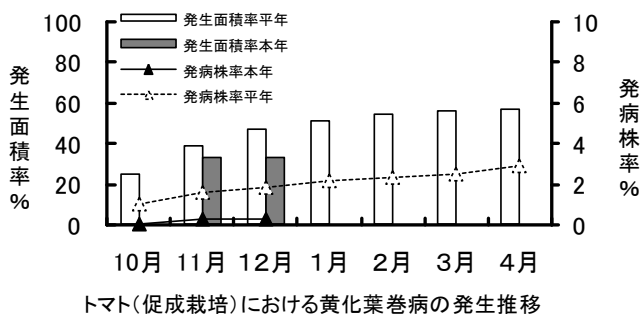
アブラムシ類は各地区とも平年並から少発生となっています。初期から発生の多かったハウスでは、虫媒伝染性のウイルス病の発生に注意してください。ヒラズハナアザミウマは各地区とも平年並の発生となっています。厳寒期に天敵の頭数が減り、日差しの強くなる2月に急に害虫が増加する場合がありますので、注意してください。薬剤を散布する場合は各種天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

平成27年1月7日

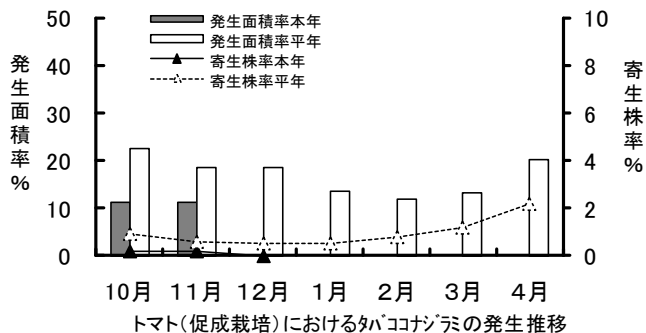
高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月)
野菜類ダイジェスト版

● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: やや少

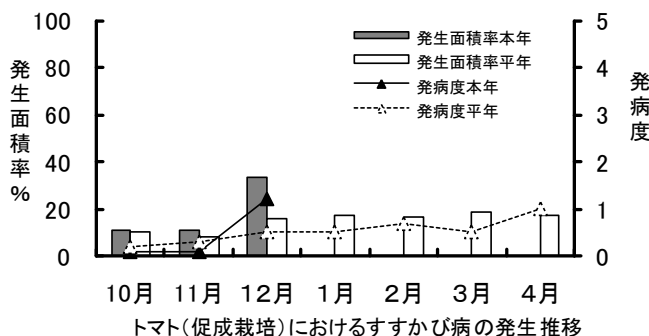


タバココナジラミ 発生量: 少

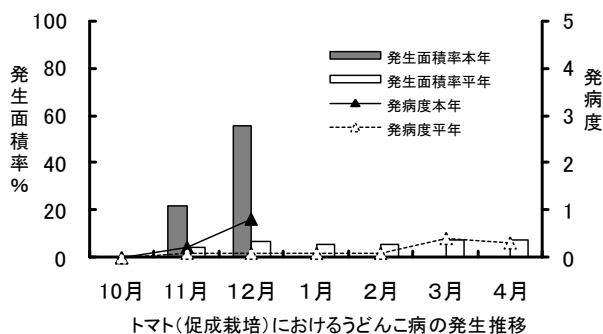


トマト黄化葉巻病の媒介虫であるタバココナジラミの発生は少発生となっており、トマト黄化葉巻病の発生もやや少発生となっています。発病株は感染源になりますので可能な限り除去し、タバココナジラミの発生が見られる場合には低密度のうちに防除しましょう。また、併せて粘着資材等による物理的防除も実施しましょう。

すすかび病 発生量: 多

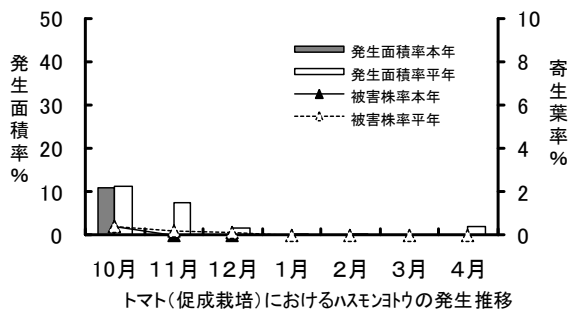


うどんこ病 発生量: 多

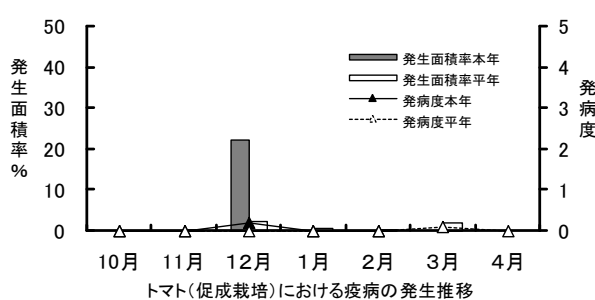


すすかび病、うどんこ病ともに先月よりもかなり発生が増えています。今後の予報では降水量がやや多く、天候によりすすかび病が急に拡大することがあるので注意してください。トマトのうどんこ病には2種類あり、現在はいわゆるうどん粉をまぶしたような白粉タイプではなく、葉の表面が黄化し、裏面は紅を帯びた淡褐色となるタイプの病斑が見られています。

ハスモンヨトウ 発生量: 少



疫病 発生量: 多



現在はほとんど発生はみられませんが、ハウス内に残っていて効果的な薬剤散布が行われない場合には、春先に増加が見られる場合があるので注意してください。

サイド際の水滴の落ちる場所で、発生の多く見られるハウスがあります。今後も発生しやすい気象条件が続くと考えられるので発生に注意して、初期防除を心掛けてください。